

第47回星の降る里・芦別健夏まつり

7月16日と17日の2日間にわたって「星の降る里・芦別健夏まつり」が開催されました。初日は晴天に恵まりましたが、2日目の午後から雨に見舞われ、残念ながら「千人踊り」は中止に。それでも、初めて行われた「さくらんぼ種飛ばし大会」などには多くの子どもたちが参加するなどにぎわいを見せました。



昨年に続き「一番時計」(タイムレース1位)となった「緑幸流」

重さ約1トンの「昇き山」3本が約2キロのコースでタイムを競う「追い山」。水法被姿で力の限り出し尽くす男たちに沿道から盛んな声援が送られました。

健夏山笠「追い山」



無事に走り終え、恒例のもちまき「栄流」



最後の力を振り絞る「北大黒流」

主役は子どもたち



芦別子供太鼓の子どもたちも勇壮な演奏でまつりに花を添えました



芦別青年会議所の企画で行われた「芦別名物さくらんぼの種飛ばし大会」



市民の皆さんの無病息災を願って「芦別獅子」

■ 頼城地区と上芦別地区に大規模太陽光発電所を建設へ



市内頼城地区と上芦別地区に新たに大規模太陽光発電所が建設されることになり、6月22日に両地区でそれぞれ住民説明会が行われ、7月から建設工事が行われています。

事業を行うのは、札幌市に本社がある日本エネルギーバンクで、頼

城地区では7万5,000平方メートルの土地に発電所を建設し、発電規模は2,500キロワットを計画。上芦別地区では1万6,000平方メートルの土地に500キロワット規模の発電所を建設します。

発電開始は来年3月を予定しており、事業期間は20年となっています。

■ 夜の図書館に小学生8人が「お泊まり」して探検

7月1日から2日にかけて、市立図書館で「夜のとしょかん たんけん隊」が行われ、小学1年から3年生までの男女8人が参加しました。子どもの読書活動推進事業の一環として初めて行われたものです。

当日は、閉館後の図書館内で、

寝室のカギを探し出す「なぞとき探検」や本の読み聞かせなどが行われ、子どもたちはドキドキしながら見学。翌朝は、前日読んだ絵本の中にあつたサンドイッチやミルクケーキなどのメニューを作って朝食をとるなど、「とても楽しかった」などと話していました。



■ 荒木製作所が市の旧浄化センターを活用して第2工場開設



市内で、複写機などに使われるトナー原料を生産している荒木製作所が、上芦別町にある市旧浄化センターを活用して第2工場を開設しました。

同社は平成13年、本市に工場を開設し、北海道内で唯一、トナー原料の粉碎工程を行ってきましたが、事業拡大により混練工程も市

内で行うため、新たな工場の設置場所を探していたところ、平成27年から使われていない旧浄化センターを市が無償で貸与、活用されることになりました。

7月9日に行われた開所式では、今野市長が「遊休施設が活用され、雇用拡大にもつながれば喜ばしいこと」と述べました。

■ 市国際交流協会がベトナム人研修生に日本語を指導

芦別市国際交流協会は、6月下旬から7月11日まで、日本ソーイング北海道工場で縫製技術を学ぶために来日したベトナムからの研修生に日本語を指導しました。

研修生に基本的な日本語会話を習得してもらおうと、同工場が国際交流協会に依頼したもので、18歳から34歳までの女性5人が研

修。同協会の西英昭さんを中心とする協会メンバーが講師を務めました。

5人は、基本的なあいさつや日常でよく使われる会話など、テキストも使いながら学び、「平仮名は読めるけど、漢字は全然ダメ、難しい」などと言いながらも、楽しそうに指導を受けていました。

